

### 2018 年 IEC トーマス・エジソン賞を受賞して

IEC TC 100/TA 2 TAM

三菱電機株式会社

杉浦博明

2018 年 10 月に IEC 大会が韓国の釜山で開催されました。10 月 22 日に開催された標準管理評議会(SMB: Standardization Management Board)において、SMB 議長(IEC 副会長)の Ralph Sporer 氏から 2018 年 IEC Thomas A. Edison Award を拝受いたしました。

このような素晴らしい賞をいただくことができ大変光栄に感じております。この賞は、IEC の標準化活動に貢献した TC/SC の現役議長・幹事に与えられるもので TC 100(オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器)傘下の Technical Area 2 (TA 2: 色彩特性測定および色彩管理)の Technical Area Manager (TAM: SC の議長に相当)としての貢献が評価されたものです。これは、TC 100 及び(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)の AV&IT 標準化委員会、TC 100 国内員会、TA 2 対応標準化 G の皆様と一緒にいただいた賞であると理解しています。



[左: Sporer SMB 議長、右: 杉浦 TC 100/TA 2 TAM]

1995 年に TC 100 が設立されて以来「色彩特性測定及び色彩管理」の領域に関する国際標準化にエキスパートやプロジェクトリーダーとして参画してきました。2008 年に TA 2 の TAM となりました。それ以降 約 10 年に亘りテクニカルセクレタリの Jack Holm 氏(米国)およびアシスタントテクニカルセクレタリの奥田 悟崇氏(日本)と協力して TA 2 を運営して参りました。国際的に公正な運営を心掛けつつ、この分野の製品(ディスプレイ、デジタルカメラ、プリンタ 等)は、日本の主要な産業であることを踏まえ、これらが特に色彩に関してスムーズにデータ交換できるような標準開発に注力してきました。

また、規格は出版された後の健全な普及・運用も重要であると考えております。IEC 61966 シリーズの中で最も広く普及している規格として IEC 61966-2-1 sRGB があげられます。1999 年 10 月に出版されてから 19 年を経た現在でも多くの製品に適用されています。ところが、出版後長い時が経つ間に、本来の sRGB とは異なる間違った解釈の文書が特にネット上に氾濫するようになってきました。4,5 年前は検索エンジンで sRGB を検索すると IEC 規格よりもそれらの間違った解釈の文書の方が上位に現れるという由々しき事態に陥っていました。JEITA の TA 2 対応標準化 G のメンバーの協力を得てその原因を突き止めたところ、他の標準化団体から出版された文書もその原因のいくつかであることがわかりました。他の標準化団体も含め原因となる文書の発行者と個別に交渉しこの問題を解決するのに約 4 年を費やしました。新たな規格を開発することはもちろん重要ですが、この例のように既に発行された規格が正しく活用されるような取り組みも重要と考えます。

今後も引き続き TAM として TA 2 を運営していくとともに、これまでの国際標準化の経験を活かして IEC の他の分野(SyC AAL におけるスマートホームの機能安全規格等)の標準化にも貢献する所存です。また、標準化人材の育成という観点から後進の育成にも注力して参りたいと考えております。

最後に、この賞をいただくにあたって JEITA、(一財)日本規格協会の IEC 活動推進会議 (IEC-APC)、経済産業省の皆様および SMB 委員の江崎様に多大なるご支援をいただいたことに厚く御礼申し上げます。

参考: IEC ホームページ "IEC Thomas A. Edison Award Recipients"

[https://www.iec.ch/about/awards/thomasedison/thomas\\_edison\\_recipients.htm](https://www.iec.ch/about/awards/thomasedison/thomas_edison_recipients.htm)

以上